

# JR東海労なごや

2023年8月30日 No1226  
JR東海労名古屋地方本部  
発行者：荻野隆一  
編集者：教宣部

## 2023年度労働協約改訂・労働条件改善交渉

### 2023年度労働協約改訂及び労働条件改善に関する申し入れ 現場の切実な声を黙殺するな！

8月8日、本部は「2023年度労働協約改訂及び労働条件改善に関する申し入れ」を申4号として会社に提出しました。現場では昨年秋に提案された「業務改革」でさらに労働強化がされています。JR東海労は収入は目減りされ、仕事は増やされることに、しっかりと要求を突きつけていきます。名古屋地本は本部と共に闘っていきます。

今回の申し入れでは「業務改革」に対する申し入れが多く入っています。この申し入れを深掘りします。

#### 業務改革で進む労働強化

(賃金・制度関係の要求より)

- ・汚物処理を行った場合、汚物処理手当5,000円を支給すること。

業務改革は関連会社でも行われています。大幅に要員が削減されています。そのしわ寄せが運転士・車掌に降り掛かっています。名古屋駅で営業列車から回送列車になる場合の旅客の降車確認を一部車掌がするようになりました。国鉄時代から通じて初めてのケースです。目が行き届かなくてお客様が降車前にドアを閉めるケースもあります。また、終着列車の掃除を乗務員が行うことが増えています。

#### こんなやり方で綺麗になるのか？サービス低下は否めない

車内に嘔吐物があった場合も乗務員が対応しています。後作業があり時間が限られている中での清掃となります。掃除道具も持っていないので指定された場所まで取りに行く手間もあります。清掃会社のように専門的な道具もない中で作業を行います。座席の汚れがあった場合が最悪で掃除してもしみこんだものが取れないので「故障札」で座席を使用しない手配をします。しかし、翌日乾いていたときには故障札を外しそのまま使用します。その後のシートのシミはどうなっていくのか分かりません。サービス低下に留まらず衛生面でも不安が残ります。

要員削減で会社は効率化ができ収入が増えているはずですが。現場で苦勞している社員に手当を付けることを要求します。

**要求実現に向け現場から声を上げよう！**